



次世代教員養成センター 生田 周二 特任教授



子ども・若者支援従事者の専門性構築の課題と展望 - 「支援の重層性」の視点から - (2022~2025年度)

キーワード 子ども・若者支援/ 第三の領域/ 専門性/ 支援の重層性/ 社会教育的支援/

どのような研究をなぜ行っているか

・研究目的

子ども・若者支援は、家庭・学校とは異なる形で、社会への移行や自立を支援する仕組みのことで。研究では、ドイツなどとの比較研究を通して得られた知見により、家庭・学校に次ぐ「第三の領域」(図1)として子ども・若者支援を位置づけ、次の4つの研究領域に分かれて研究を展開しています。

I. 原理・比較研究領域

○「第三の領域」の枠組み、「支援の重層性」と「社会教育的支援」の構造の研究

II. 支援論・方法論研究領域

○居場所づくり、文化活動、学習支援、就労支援、福祉的支援などの支援の調査と臨床的分析

○研修セミナー開催をしつつ、ターゲット支援の研修教材・プログラムの作成

III. 子ども領域； IV. 若者領域

○専門職養成に向けた専門性研究・プログラム開発（養成・研修システム、教材開発）

とりわけ「支援の重層性」は、支援対象と担当機関等の多様性を踏まえ、(1)支援の枠組み、(2)支援方法、(3)連携・協働の3側面でのシステムの重層性です。「社会教育的支援」は教育的作用の側面として自立や人格形成に関わっており、一人一人の受容から、関係性・つながり・参加の広がり、コミュニティづくりへと可能性が分岐する支援の作用を解明するアプローチです。

※ この研究は、日本学術振興会・科学研究費補助金（基盤研究B）に採択され（2013~2016、2018~2021、2022~2025年度）、15名の研究分担者とともに実施しています。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

「子ども・若者支援の専門性に関わる要素」として「I 支援の枠組み把握」、「II 支援方法の把握・活用」、「III 連携・協働」、「IV 管理・運営」の4分野からなる要素を提示し、それに基づく専門性構築、ならびに養成・研修プログラムと教材を協力団体と連携・協働し開発しています。その成果は、下記を通じて発信するとともに、支援者研修を通じて活用できるようにしています。

- ・ HP：<https://ipty2014.wixsite.com/mysite>
- ・ FB：<https://www.facebook.com/ipty2014/>

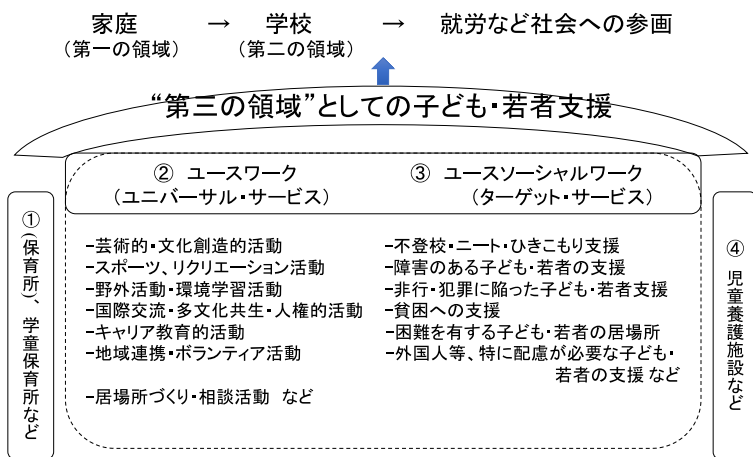


図1 “第三の領域”としての子ども・若者支援の枠組み

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

研究母体として子ども・若者支援専門職養成研究所を2013年に設立し、協力・連携団体の一つであるユースワーカー協議会や北摂こども文化協会などとの連携で下記の研修教材を作成しています。

- ユースワーカー全国協議会(準備会)編(2019)『ユースワークって何だろう』(ワークブック)
- 子ども・若者支援専門職養成研究所編(2020)『子ども・若者支援専門職養成ガイドブック—共通基礎—』(sample)版
- ユースワーカー協議会編(2022)『ユースワーカー・ハンドブック2』子ども・若者支援専門職養成研究所発行

